



GRADUATE SCHOOL
OF
HUMAN
DEVELOPMENT
AND
ENVIRONMENT

神戸大学大学院 人間発達環境学研究科 2018

WHAT IS HUMAN DEVELOPMENT

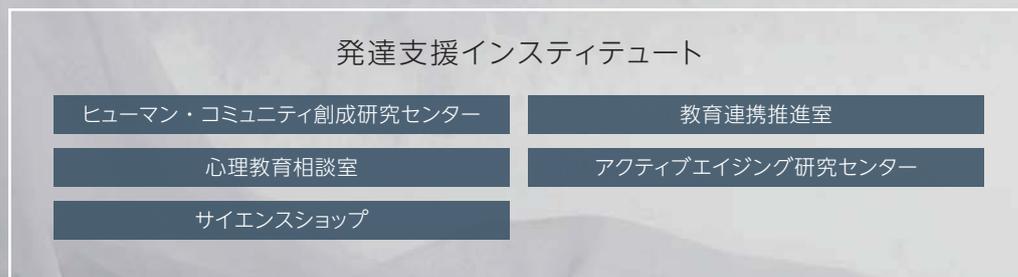
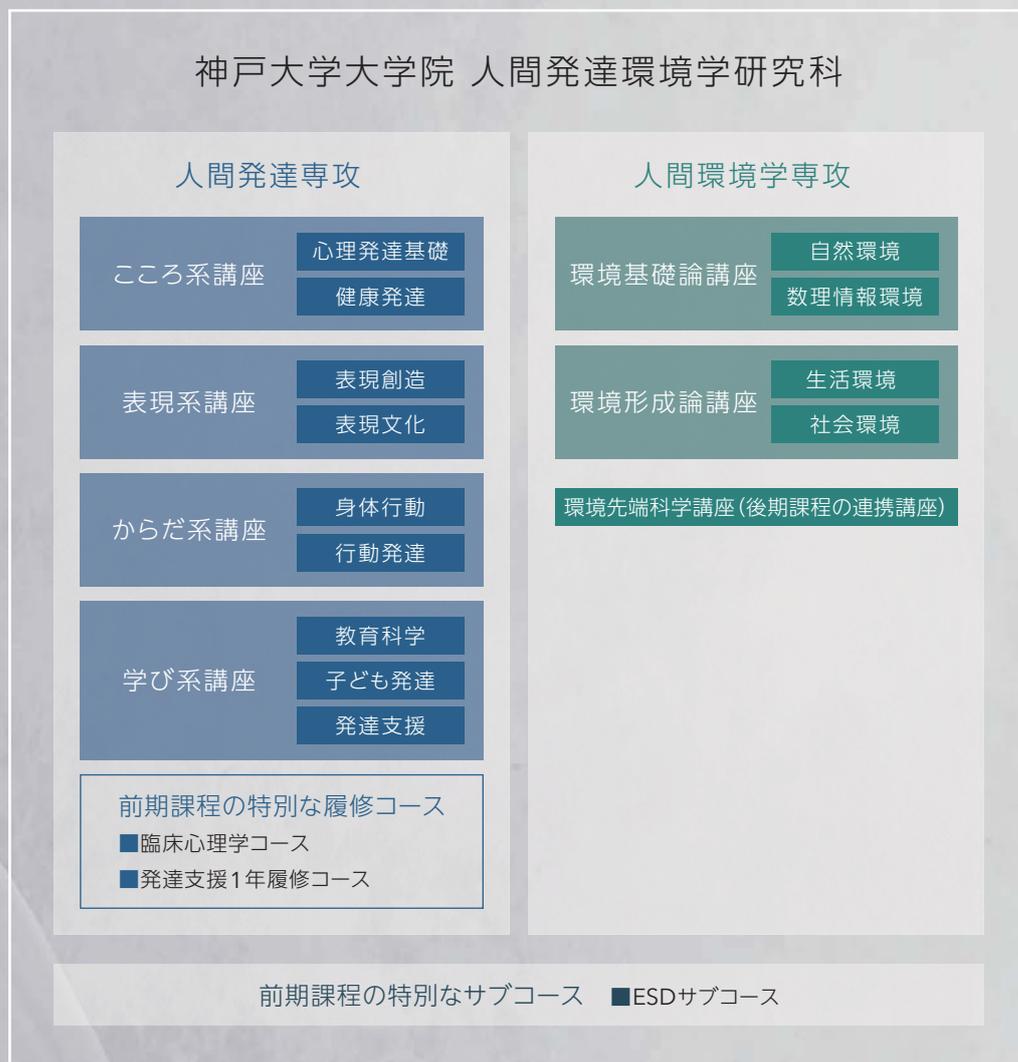
?

人の発達とは 人の発達を支える環境とは

人間発達環境学研究科では、人の一生を通じた発達と、その発達を支える環境を対象とした教育研究を行っています。複雑な諸課題を抱く現代社会において、人がどのように潜在的に持つ能力を開花させるのか、そして、そのためにどのような環境が必要なのかについて、原理的、実践的に研究し、人のよりよい生 (well-being) の実現を目指して「知」の構築を行っていきます。

研究科の構成

人間発達環境学研究科は、以下の専攻と附属施設で構成されています。



Contents

研究科の構成	03	大学院生の研究活動	18
沿革と入学者受け入れ方針	04	社会貢献・地域貢献(発達支援インスティテュート)	20
研究科長からのメッセージ	05	国際学術交流	22
研究科の教育	06	修士論文と博士論文	24
人間発達専攻	08	進路・資格免許	26
人間環境学専攻	14	入試日程・データ	27



沿革

- 1874年10月 兵庫県師範伝習所設置
- 1877年 1月 神戸師範学校と改称
- 1886年 4月 兵庫県尋常師範学校と改称
- 1898年 4月 兵庫県師範学校と改称
- 1900年 2月 姫路に兵庫県第二師範学校を設置
- 1900年 4月 兵庫県師範学校を兵庫県第一師範学校と改称
- 1901年 8月 兵庫県第一師範学校を兵庫県御影師範学校と改称
兵庫県第二師範学校を兵庫県姫路師範学校と改称
- 1902年 2月 兵庫県明石女子師範学校設置
- 1919年 4月 兵庫県立農学校甲種別科設置
- 1923年 3月 兵庫県立農業補習学校教員養成所として兵庫県立農学校甲種別科が独立
- 1935年 6月 兵庫県立農業補習学校教員養成所を兵庫県立青年学校教員養成所と改称
- 1936年 4月 兵庫県御影師範学校と兵庫県姫路師範学校を兵庫県師範学校として統合
- 1943年 4月 兵庫県師範学校として兵庫県師範学校と兵庫県明石女子師範学校を包括し官立移管
- 1944年 4月 兵庫青年師範学校として兵庫県立青年学校教員養成所を官立移管
- 1949年 5月 兵庫県師範学校と兵庫青年師範学校を統合し神戸大学教育学部として発足
- 1965年 4月 神戸大学教育専攻科を設置
- 1981年 4月 神戸大学大学院教育学研究科修士課程を設置
- 1992年10月 神戸大学教育学部を改組し、神戸大学発達科学部を設置
- 1997年 4月 神戸大学発達科学部と神戸大学国際文化学部を基礎とした
神戸大学大学院総合人間科学研究科修士課程を設置
- 1999年 4月 神戸大学大学院総合人間科学研究科博士課程を設置
- 2005年 4月 神戸大学大学院総合人間科学研究科発達支援インスティテュートを設置
- 2007年 4月 神戸大学大学院総合人間科学研究科を改組し、
神戸大学大学院人間発達環境学研究科を設置
- 2013年 4月 神戸大学大学院人間発達環境学研究科の4専攻(心身発達専攻、教育・学習専攻、
人間行動専攻、人間表現専攻)を1専攻(人間発達専攻)に改組
- 2017年 4月 神戸大学発達科学部と神戸大学国際文化学部を再編統合し、国際人間科学部を設置

Admissions Policy 入学者受け入れ方針

神戸大学のアドミッション・ポリシー

神戸大学は、世界に開かれた国際都市神戸に立地する大学として、国際的で先端的な研究・教育の拠点になることを目指しています。これまで人類が築いてきた学問を継承するとともに、不断の努力を傾注して新しい知を創造し、人類社会の発展に貢献しようとする次のような学生を求めています。

- 進取の気性に富み、人間と自然を愛する学生
- 旺盛な学習意欲をもち、新しい課題に積極的に取り組もうとする学生
- 常に視野を広め、主体的に考える姿勢をもった学生
- コミュニケーション能力を高め、異なる考え方や文化を尊重する学生

人間発達環境学研究科のアドミッション・ポリシー

[人間発達専攻] 学位：修士(学術)、修士(教育学)、博士(学術)、博士(教育学)

神戸大学のアドミッション・ポリシーにもとづき、人間発達環境学研究科人間発達専攻は、次のような資質・能力を持った学生を積極的に受け入れる。

- 高度な研究を遂行していくための基礎的な資質・能力
- 人間の発達に関する諸問題に対する鋭敏な感受性と深い専門知識にもとづいて新しい課題を析出していく資質・能力
- 多角的かつ重層的に課題を分析・考察し、体系的に概念化と理論化を行うことができる高度な知的能力
- 現代的諸問題を解決するための具体的方策を提案し、柔軟に対応できる行動力

[人間環境学専攻] 学位：修士(学術)、修士(理学)、博士(学術)、博士(理学)

神戸大学のアドミッション・ポリシーにもとづき、人間発達環境学研究科人間環境学専攻は、次のような資質・能力を持った学生を積極的に受け入れる。

- 高度な研究を遂行していくための基礎的な資質・能力
- 人間の発達を支える環境に関する諸問題に対する鋭敏な感受性と深い専門知識にもとづいて新しい課題を析出していく資質・能力
- 多角的かつ重層的に課題を分析・考察し、体系的に概念化と理論化を行うことができる高度な知的能力
- 現代的諸問題を解決するための具体的方策を提案し、柔軟に対応できる行動力

Message from Dean

研究科長からのメッセージ

人間発達環境学研究科長 岡田 修一 教授



近年の科学技術(特に情報通信技術)の発展やグローバル化の進展は、急速に経済・社会のルールを変化させ、人々のライフスタイル、社会と人間の在り方、国家間の相互依存関係などに影響をもたらし、地球規模の様々な課題を顕在化させています。国内を見れば、少子高齢化が加速し、地域経済社会は疲弊しつつあります。このような状況では、人間の発達に阻害される可能性、すなわち一人ひとりの人間が潜在的にもつ多様な能力の発現が妨げられることが危惧されます。

私たちには、「人の発達とは何か」「人の発達を支える環境とは何か」という困難な問いと向き合い、より実践的な観点から具体的な解を導くことによって、より善き生(well-being)の実現をめざした「知」の構築が求められていると思います。

人間発達環境学研究科は、この要請に応えるため、2007年4月に設立されました。本研究科は、「ヒューマン・コミュニティ創成研究」という新たな理念を中核に、人間の発達及びそれを支える環境を対象とした発達科学に関する卓越した教育研究を実施することをミッションにしています。具体的には、人間の潜在的能力が開花するプロセスについて教育研究を行うとともに、人間を取り巻く環境について、人間の潜在的能力を開花させる観点から教育研究を行います。「ヒューマン・コミュニティ創成研究」とは、「人間的な社会(ヒューマン・コミュニティ)の創成をめざして、地域社会、行政、企業、市民などと連携しつつ、人間の発達と発達を支える環境について原理的、実践的に研究する活動の総体」を意味します。

本研究科は人間発達専攻と人間環境学専攻から成っています。人間発達専攻は、教育学、心理学、健康科学、体育・スポーツ科学、社会学、芸術学、工学等の領域において、「人間の発達」に係る諸事象を「個人の創造的発達」と「個人の創造的発達を促す関係性」という二つの視点から総合

的に捉え教育研究を行います。また、人間環境学専攻は、理学、工学、社会学、経済学、法学、農学、家政学等の領域において、「人間の発達を支える環境」に係る諸事象を「人間の発達を促進し支援する環境要因の解明と開発」という視点から総合的に捉え教育研究を行います。

本研究科の教育研究活動には、次の3つの特色があります。

第一に、学際的・総合的であるという点です。本研究科では、異なる専門分野間の連携や複数分野での協働を通して、複雑化・重層化する人間の発達や環境に係る様々な課題に対し、多面的・総合的・包括的な研究を推進しています。

第二に、実践的・応用的であるという点です。本研究科では、現代社会に生起する様々な問題の解決をめざし、関係者と協働しながら有効な解決方法を開発するアクションリサーチの手法を用いた研究を実施しています。特に研究科附属の発達支援インスティテュートでは、「大学と地域とを結ぶプラットフォーム」として、教育・研究・社会貢献を一体的に進めています。

第三に、国際的であるという点です。本研究科では、海外の大学との学術交流を促進するとともに、海外の学生、研究者、実践家等と課題を共有しながら調査研究や学術交流を進めるスタディツアーを積極的に実施し、教育研究の国際化を推進しています。

人間発達環境学研究科は、一人ひとりの人間のwell-beingの実現をめざし、人間の潜在的能力が開花するプロセスやそれに影響を及ぼす環境について教育研究を行う大学院です。今後の未来社会において、well-beingが重要な言葉となることは疑う余地はないでしょう。私は、本研究科での教育研究の成果が、期待される未来社会へと導く羅針盤となるものと考えています。みなさんには、柔軟性と受容性をもちながら、持続的かつ包摂的な社会の創成に向けて、私たちとともに、歩んでいただきたいと願っています。

研究科の教育

教育の特色

博士課程 前期課程

人間の発達やそれを取り巻く環境の発展に関わる基礎的、応用的、実践的な教育・研究活動に対し、学生の主体的参加を促し、高度な専門的能力を備えた人材の養成をめざしています。このため、本研究科では、個々の学生が在学中のあらゆる機会を通じて知識、スキル、能力、資質とそれらの自己開発力を獲得できるよう、学生の「学び」をトータルにプロデュースし支援する体制をとっています。以下のような特色をもつ、能力開発支援型の教育プログラムを提供します。

■徹底した基礎的・実践的教育

研究科共通科目「特別研究Ⅰ」において、文献調査法や資料収集法、フィールドワークやアクションリサーチの技法など、研究の基本的手法を修得し研究能力の基礎を固めます。さらに「特別研究Ⅱ」において、研究の実際の場面に関わることで、研究遂行のための実際的手法を修得します。

■個々の学習課題に応える積み上げ方式の専門教育

全般的な専門力量の形成を支援するために、各専攻では専攻共通科目（人間発達専攻では「人間発達総合研究Ⅰ・Ⅱ」「人間発達関連研究」「人間発達研究」、人間環境学専攻では「人間環境学関連研究」）を置いているほか、個々の研究課題に応じたコースワークが可能となるように、基礎科目「特論Ⅰ」、展開科目「特論演習」及び関連する専門科目から構成される、積み上げ方式のカリキュラム構成をとっています。特に「特論演習」では、スキル開発を重視します。

■ヒューマン・コミュニティ創成のマインドを醸成する教育

研究科共通科目「ヒューマンコミュニティ創成研究」において、発達支援インスティテュート（P20、P21を参照）を活用した産学官民協働のフィールド研究活動に積極的に参画し、それらの活動を通して、ヒューマン・コミュニティ創成のマインドを醸成します。

■ソフトスキルや社会人基礎力の育成

専攻レベル、講座レベルで実施される諸活動（研究集会、セミナー、修士論文発表会など）において、「参加」「運営」といった役割を担うことにより、コミュニケーション能力、ネゴシエーション能力、企画力、マネージメント能力、チームワーク力、リーダーシップ力といったソフトスキルや社会人基礎力の育成を支援します。

■持続可能な開発のための教育

「持続可能な開発のための教育（ESD = Education for Sustainable Development）^(注)」の理論と実践について学ぶことを目的にしたESDサブコースを設置しています。本研究科のすべての学生が、主専攻に加えて選択できるコースです。環境、人権、開発、防災、経済など、多様な課題の解決について、教育の観点から考究し行動することのできる国際人の育成を目指しています。このサブコースの修了生には、「ESD Advanced Practitioner」の認証が付与されます。

(注)地球規模の環境破壊や、エネルギーや水などの資源保全の問題など、人々が現在の生活レベルを維持しつつ、次世代も含むすべての人々により質の高い生活をもたらすことができる社会づくりが重要な課題になっています。これを解決するため、国連で決議された「持続可能な開発のための教育」のことをESD (Education for Sustainable Development) といいます。

博士課程 後期課程

人間の発達やそれを取り巻く環境の発展に関わる原理的、応用的、実践的な教育研究活動に対し、学生の主体的参加を促し、高度な専門的能力だけでなく、独創的で卓越した研究能力を備えた人材の養成をめざしています。そのため、本研究科では、以下の特色をもつ教育プログラムのもとで、学生が、自らの専門を深めるだけでなく、多角的かつ相対的に捉えることにより、自らの専門のアイデンティティを練り上げることができるとともに、高度な学問的能力を身につけます。

■専門力量を深化させる教育

さらなる専門力量の深化をめざした高度化科目（「特論Ⅱ」）を展開します。

■実践的研究能力に磨きをかける教育

研究科共通科目「特別研究Ⅲ」において、文献課題やレビュー論文の作成などを通して、国内外の研究状況を把握するための能力発展をめざします。研究科共通科目「特別研究Ⅳ」では、フィールドワークやワークショップ、研究会、プロジェクト研究などの企画・運営に参画し、研究を組織化する方法を修得します。また、国際レベルの論文作成能力を養成します。

■体系的な博士論文作成指導システムの提供

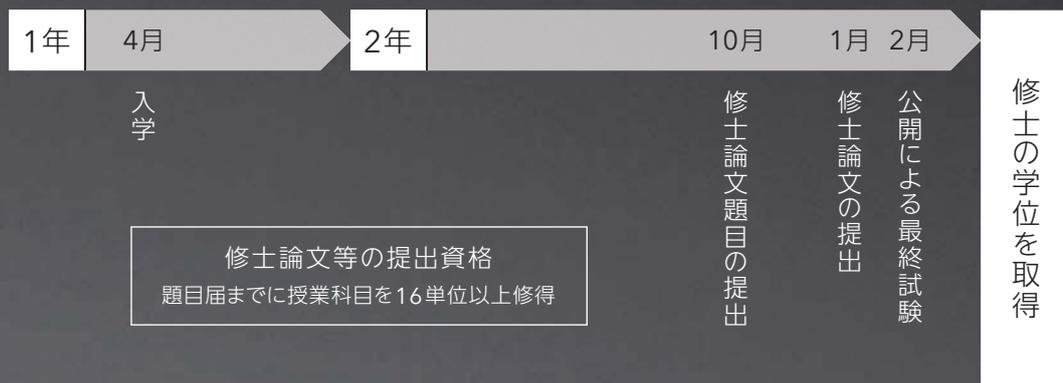
前期課程、後期課程の計5年間で円滑に博士論文を作成できるようにするため、複数教員による体系的な論文作成指導システム（基礎論文、予備審査論文、公開最終試験）を採用しています。

■実践的な教育力の開発支援

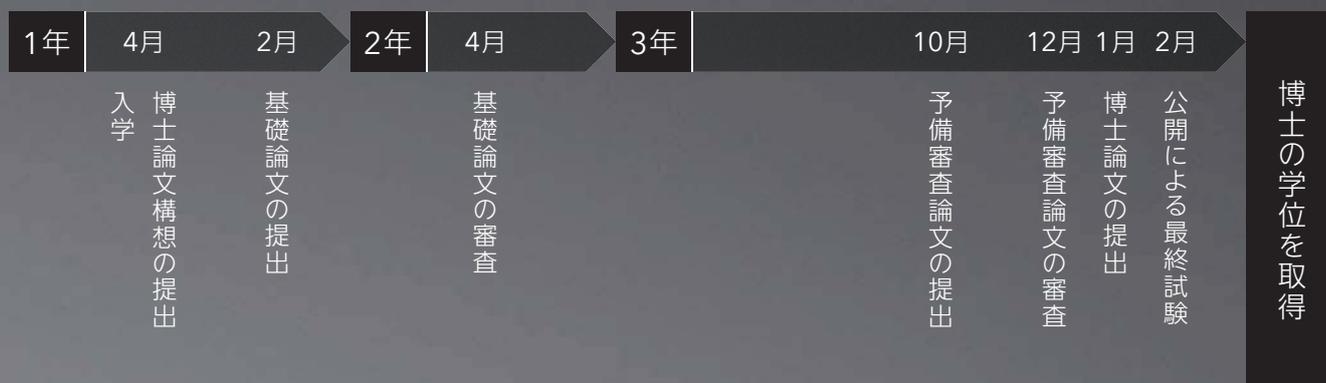
大学教員をめざす学生に対して、学部の教育実習に相当する科目「教育能力養成演習」を設置し、実践的な教育力の開発を支援します。

学位取得のプロセス

博士課程前期課程



博士課程後期課程



WELLBE-ING



DEPARTMENT OF HUMAN DEVELOPMENT

人間発達専攻

Message from the Chair

専攻長のメッセージ 人間発達専攻長 稲垣 哲成 教授

人間発達専攻は、多様な側面を持つ人間の発達を、総合的な視点から教育研究の対象とします。前期課程においては、人間の発達に関する実践的諸課題の解決やそれを支える新たな公共の創出に貢献する、高度専門職業人の養成を目的とします。後期課程においては、人間の発達に関する高度な専門的学識及び創造的な研究能力を持つ自立した研究者、又は研究能力に加えて、

確かな教育開発力を備えた大学教員の養成を目的とします。さらに、特別な履修コース「臨床心理学コース」と「発達支援1年履修コース」を設置し、実践的職業人も養成します。本専攻では、幅広い問題関心のもとに、こころ系、表現系、からだ系、学び系という各系の方法及び視点の多様性を学習し、自らの専門の新たな位置付けや特徴を修得します。



教育の特色

「学問領域複合型人間発達研究」の有効性

人間の発達とは、すべての人がもつかけがえのない個性を前提とする概念です。一人ひとりの人間は、様々な潜在能力をその人に固有の道筋で開花させていくのであり、それを人間の発達と呼ぶことができます。本専攻は、一筋縄では捉えられない人間の発達と向き合おうとするとき、関連する学問分野が相互につながり、それぞれに蓄積された学問的知見を有機的に結び付ける「学問領域複合型人間発達研究」こそ、発達の実像の解明に効果的であると考えています。

研究課題に応じた学生自身によるコースワークの設定

本専攻は、学生自身が、既成の概念にとらわれることなく、それぞれの問題意識に基づき独自の視点から人間の発達を解明することを期待しています。そのため、心理学、健康科学、体育学、芸術学、教育学等、多岐にわたる専門科目を置き、学生が研究課題に応じてそれらを組合せ、自分自身のコースワークを設定できるようにしています。

専攻共通科目の設置

本専攻には、自由なコースワークを支え、専門性を確保する仕組みが用意されています。「人間発達総合研究Ⅰ、Ⅱ」や「人間発達研究」などの専攻共通科目が置かれ、人間発達研究の視点や研究方法の多様性を学習するとともに、それぞれがとるべき研究上の位置や方向を理解できるようにしています。

コミュニティ創成に役立つ人材の養成

本専攻では、包摂する学問領域の広さから、修了生は多彩な進路で活躍することが期待されます。いずれの進路をとるにせよ、人間発達に係る豊かな知見をもとに、多世代の人々がともに参画できる安全で安心なコミュニティの創成に役立つ人材になることが期待されます。前期課程では、人間発達という視点から21世紀の諸課題に果敢に取り組み新たな公共性の創出に貢献できる高度専門職業人を養成します。また、後期課程では、自らの専門以外の学問領域に広く目配りしながら、コミュニティ創成の研究を主体的に展開できる研究者や大学教員を養成します。

先端的研究に協働する「研究道場」の設置

本専攻では、人間発達研究の特定分野において、特に優れた大学教員・研究者を養成するため、本研究科の教員が共同で先端的研究を進める研究会に学生が参加し協働する体制「研究道場」を整備しています。そこで、学生が実践的な研究力量を身につけ、研究者として早期に自立できる素養を修得するようにします。

系講座

こころ系講座

こころ系講座では、心理学と健康科学を総合した観点から、心身の発達や健康、その促進・障害要因の探究と複雑な相互関係の把握に努め、広い視野と深い専門性をもって人間発達の様相を追究します。

研究領域

- 心理発達基礎(発達障害心理学、発達心理学、教育心理学、人格心理学、発達障害臨床学、臨床心理学、カウンセリング、発達臨床心理学)
- 健康発達(健康科学、健康教育学、健康心理学、環境保健学、公衆衛生学)



表現系講座

表現系講座では、人間の感性の発現としての表現活動を教育研究対象とし、実践表現を基盤とした理論構築や、その営みによって生み出された様々な「もの」「こと」に関わる多面的な研究を行います。

研究領域

- 表現創造(作曲・編曲、器楽、舞踊学、音楽療法、絵画表現)
- 表現文化(西洋音楽史、民族音楽、近代建築史、感性科学、ファッション文化史、社会情報学)



からだ系講座

からだ系講座では、日常生活からレジャーやスポーツにわたる幅広い身体活動や人間行動の発達と加齢及び適応現象を教育研究対象とし、人々の発達や社会活動に関わる様々な課題について学際的な観点から研究を行います。

研究領域

- 身体行動(体育・スポーツ史、運動生理学、運動心理学、健康運動生理学、スポーツ技術論、バイオメカニクス、身体運動システム論)
- 行動発達(応用生理学、ジェロントロジー、高齢者心理学、スポーツプロモーション、加齢の身体運動科学、社会老年学)



学び系講座

学び系講座では、教育及び学習等に関わる社会的・個人的営為を対象に教育研究を行い、人間の誕生から高齢期にいたるところ及び諸能力の発達や人間形成に関わる諸要因について理論的、実証的に探究します。

研究領域

- 教育科学(科学教育、社会認識教育、教育方法学、教育制度、教育行政、日本教育史、西洋教育史、教育哲学)
- 子ども発達(発達心理学、幼年音楽、児童文学、数理認識、美術教育、乳幼児教育、身体発育発達)
- 発達支援(子ども家庭福祉論、生涯学習、障害共生支援、ボランティア学習、ジェンダー論)



履修コース(前期課程のみ)

本専攻では、実践的職業人の養成を目的とする2つの特別な履修コースを設置しています。

■臨床心理学コース

臨床心理士資格認定試験の受験資格を取得できるコースで、心理臨床の専門職に求められる実践力と研究能力をともに高めます。

■発達支援1年履修コース

職業人として高い成果を積み重ねてきた社会人を対象とし、発達支援に関する研究分野において1年間で修士号の取得が可能なコースです。本コースでは、実践に即した研究能力を高め、さらに高度に専門的な職業人としての能力を獲得することを目指します。

取得可能な資格免許

- 幼稚園教諭専修免許状
- 小学校教諭専修免許状
- 中学校教諭専修免許状(保健体育、音楽、美術)
- 高等学校教諭専修免許状(保健体育、音楽、美術)
- 特別支援学校専修免許状
- 臨床心理士試験受験資格(臨床心理学コースのみ)

■心理発達基礎

前期課程では、心理学の専門的知識や技術を持って、心の発達と様相をトータルに研究するための能力と円滑な人間関係をマネジメントできる実践力を養成します。後期課程では、前期課程(臨床心理学コースを含む)での学習・研究を踏まえ、生涯にわたる心の発達について、さらに高度な専門的知識を深めると同時に、解明を求められている研究課題について、多面的・総合的な視点から研究し、成果をあげることのできる人材を養成します。

研究分野

相澤 直樹 准教授 臨床心理学、臨床心理検査(投影法)

赤木 和重 准教授 発達障害心理学

伊藤 俊樹 准教授 臨床心理学

河崎 佳子 教授 臨床心理学、発達臨床心理学

齊藤 誠一 准教授 発達心理学

坂本 美紀 教授 教育心理学

谷 冬彦 准教授 人格心理学

鳥居 深雪 教授 発達障害臨床学

林 創 准教授 発達心理学、教育心理学

山根 隆宏 准教授 発達臨床心理学、発達障害児家族支援

吉田 圭吾 教授 臨床心理学

臨床心理学コース

臨床心理士資格認定試験の受験資格を取得できる前期課程のコースで、心理臨床の専門職に求められる実践力と研究能力をともに高めます。

スタッフ

相澤 直樹 准教授 臨床心理学、臨床心理検査(投影法)

伊藤 俊樹 准教授 臨床心理学

河崎 佳子 教授 臨床心理学、発達臨床心理学

山根 隆宏 准教授 発達臨床心理学、発達障害児家族支援

吉田 圭吾 教授 臨床心理学

■健康発達

心身の健康を支える体や心の仕組みとその発達や、様々な環境要因が人の健康や発達に及ぼす影響とそのプロセスについて研究及び教育を行います。さらにその有効性を検証し、広く普及する活動を実施しています。

研究分野

加藤 佳子 教授 健康教育、健康心理学

中村 晴信 教授 公衆衛生学

古谷 真樹 准教授 睡眠心理学、生理心理学、健康心理学

村山留美子 准教授 環境保健学、環境リスク学

高次の思考能力とその表現について研究する



坂本 美紀 教授 専門/教育心理学

これまで、小学校高学年を中心に、科学的思考を育成する協調学習のあり方を研究してきました。実験結果等の科学的論述力、科学的な議論力が主要なターゲットでした。現在は、大人を対象に、科学・技術が関わる社会問題に対する思考について解明しています。遺伝子診断などの遺伝子医療技術やクローン技術などと、社会はどうつきあえばいいの

か。判断を専門家だけに委ねず、情報を収集して自分の意見を構築する力が、現代の市民には求められています。異なる意見に配慮しつつ、論証構造に基づく説得力の高い意見表明をすることが、大学生には出来るのでしょうか。科学的論述や科学的議論に関する研究知見を活かし、データ収集を続けています。

■表現創造

芸術と生活と人生を新たな視点で統合することを目指し、地域社会において芸術に関わる生涯教育のファシリテーターや指導者の育成、あるいはそれと関係した音楽療法などの実践研究、及びコミュニティアートとしての新しい芸術形態の創造開発を目的とした教育研究を行います。

研究分野

岡崎 香奈 准教授 音楽療法、即興演奏

塚脇 淳* 教授 美術、彫刻

岸本 吉弘 准教授 絵画表現

坂東 肇 教授 器楽(ピアノ、室内楽)

関 典子 准教授 舞踊学、コンテンポラリーダンスの創作と研究

※2018年3月退職予定

田村 文生 准教授 作曲、編曲、西洋芸術音楽を中心とした作品研究

■表現文化

表現を、人間が意識するかどうかに関わらず生み出してきた文化として捉え、歴史的・社会的に探求します。文献調査や、実験、フィールドワークに実際の表現活動といった様々な研究へのアプローチの中で、表現文化の過去・現在・未来に対する深い認識と柔軟で創造的な構想力を養い、さらに、その認識や構想を他者に向かって分かりやすく説得的に伝えることのできる論理的な表現力を涵養します。

研究分野

梅宮 弘光 教授 近代建築史

田畑 暁生 教授 社会情報学、映像論

大田美佐子 准教授 音楽文化史、音楽美学

野中 哲士 准教授 認知科学、生態心理学

小高 直樹 教授 感性科学、図形科学

平芳 裕子 准教授 表象文化論、ファッション文化論

谷 正人 准教授 音楽民族学

対話的音楽文化史 — 響きの多層性のなかに見えてくるもの



大田 美佐子 准教授 専門/音楽文化史、音楽美学

ここ数年、多くの海外の研究者たちとの交流を経て、音楽文化史と受容史の接点で音楽の実相を捉える「対話的音楽文化史」の観点に注目しています。これは、作曲家やその美学を複眼的、多角的に議論する研究でもあります。演奏、解釈により時代を映しつつ展開するダイナミズムをもつ音楽や音楽劇を描く歴史は、事実の羅列ではありません。目には見えない、時代

も様々な音楽から私たちはメッセージを受け取り、その時代の思考を聴き、あるいは聴き逃し、時代の空気を感じとり、時に今の時代を照射する音楽と私たちは共鳴したりできなかったりもします。「対話的音楽文化史」の目指すところは、人間の多面性や表現の展開性、あるいは表現に刻印された歴史の記憶に着目し、その歴史の多層性とメッセージを読み解くことです。

■身体行動

身体運動のメカニズムや心理的・生理的効果について、運動心理学、身体コンディショニング、スポーツバイオメカニクス、ストレス生理学、身体運動制御論、運動処方論の各面から、また、運動・スポーツの文化・歴史及び振興施策について、スポーツ文化史、生涯スポーツ論の各面から学び、身体行動に関する高度な知識と研究手法を修得します。

研究分野

秋元 忍 准教授 体育・スポーツ史

河辺 章子 教授 運動生理学(身体運動制御)

木村 哲也 准教授 身体システム学、応用生理学、バイオメカニクス

佐藤 幸治 准教授 スポーツ生理・生化学

高田 義弘 准教授 運動生理学(身体コンディショニング)

高見 和至 教授 運動心理学

前田 正登 教授 スポーツ技術論、スポーツバイオメカニクス、スポーツ工学

山口 泰雄* 教授 スポーツ社会学、生涯スポーツ論

※2018年3月退職予定

■行動発達

社会科学及び自然科学の両面から現実の様々な人間行動を多角的に捉えるために老年学(ジェロントロジー)、運動老年学、社会学、応用生理学、身体運動科学、行動適応学などの多分野の研究領域を設け、人間行動の加齢に伴う発達や環境への適応に関わる課題を学際的観点からアプローチできる人材を養成します。

研究分野

岡田 修一 教授 加齢の身体運動科学

片桐 恵子 准教授 社会心理学、社会老年学

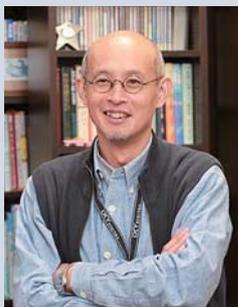
近藤 徳彦 教授 応用生理学、運動生理学、環境生理学

長ヶ原 誠 教授 スポーツプロモーション、健康行動科学、ジェロントロジー

原田 和弘 特命助教 老年行動学

増本 康平 准教授 高齢者心理学、実験心理学、認知心理学

汗からヒトの行動や適応の不思議さを探る



近藤 徳彦 教授 専門/応用生理学、運動生理学、環境生理学

我々の速く走る能力は他の動物より劣っていますが、暑い環境下で長時間走る能力は逆に優れています。この能力はヒトが汗という体外に熱を放散する強力な仕組みを持っているからです。日常的に経験する汗の機能に関して新しいことが分かりはじめています。例えば、運動などで体温などが上昇すると汗をかきますが、この汗は筋肉の疲労を感知するセ

ンサーにも調節されます。また、東アジアの人は欧米人になくない遺伝子を持っており、これが汗腺の数を変化させます。ヒトの特徴である汗の研究は、我々の進化や行動を知る上で重要ですし、ヒトの環境適応能とも関連する地球温暖化の課題解決に貢献できるかも知れません。

■教育科学

今日の社会が直面する様々な教育課題への対応を念頭におき、高度な専門知識や技術をあわせもつ教育現場のリーダーとして貢献できる人材(研究者、教員、教育行政職等)を養成します。

研究分野

稲垣 成哲 教授	科学教育	山下 晃一 准教授	教育制度論
奥山 和子 講師	日本語教育、日本事情、異文化間教育	吉永 潤 教授	社会認識教育論
川地亜弥子 准教授	教育方法学	渡部 昭男 教授	教育行政学(地域教育学、特別ニーズ教育)
船寄 俊雄 教授	日本教育史、教育学	渡邊 隆信 教授	西洋教育史、教育哲学
山口 悦司 准教授	科学教育		

■子ども発達

乳幼児から青年期の子どもを対象に、心やからだの発達と教育、言語・音楽・造形表現の発達と教育、数理認識発達と教育に関する専門領域を学び、子どもの教育と発達を総合的に研究します。

研究分野

岡部 恭幸 教授	数理認識論、数学教育	勅使河原君江 講師	美術教育
北野 幸子 准教授	乳幼児教育学、保育学	中谷奈津子*1 准教授	保育学、家族関係学
木下 孝司 教授	発達心理学	長谷川 諒*1 特命講師	音楽教育学、音楽教育哲学
國土 将平 教授	身体発達、保健体育科教育、健康・スポーツ測定	目黒 強 准教授	児童文学、国語教育
五味 克久*2 教授	幼年音楽、リトミック、合唱指揮		

*1 2017年10月着任予定 *2 2018年3月退職予定

■発達支援

現代社会における人間形成機能の社会的、教育的な開発支援を研究対象に、アクションリサーチを方法論とする実践的な研究を行います。

研究分野(発達支援1年履修コーススタッフ)

伊藤 篤 教授	子ども家庭福祉論	津田 英二 教授	生涯学習論、障害共生支援論
稲原 美苗 准教授	ジェンダー理論、現象学、臨床哲学	松岡 広路 教授	生涯学習論、福祉教育・ボランティア学習論
清野未恵子 特命助教	自然共生社会、野生動物管理、ESD		

発達支援1年履修コース

職業人として高い成果を積み重ねてきた社会人を対象とした前期課程のコースです。このコースの学生は、発達支援に関する研究分野の教員の支援を受けて、アクションリサーチに取り組み、実践に即した研究能力を高めます。また、自分自身の職業経験に基づいて論文にまとめ上げることで、さらに高度に専門的な職業人としての能力を獲得することをめざしています。発達支援1年履修コースで学ぶ学生は、経験豊富な学校教員、保育士、地方公務員、ソーシャルワーカー、企業経営者、大学職員、カウンセラーなど、様々な領域で職業経験の実績を積んだ人々です。

ジェンダーをめぐる哲学対話と表現活動の学際的研究



稲原 美苗 准教授 専門/ジェンダー理論、現象学、臨床哲学

ジェンダー研究の実践として、これまで学際的な研究プロジェクトを企画・運営してきました。例えば、障がいのあるお子さんを育てているお母さんたちに対して哲学対話(哲学カフェ)を行い、彼女たちの語りについて質的研究を行いました。現在進行形で取り組んでいるプロジェクトでは、スウェーデンやイギリスから実務者(舞踏家・アーティスト)や研究者を招いて、

重度・重複障がい児(者)と慢性疼痛患者のための非言語的表現に関するワークショップや国際シンポジウムを開催し、コミュニケーション支援のあり方について考察しています。つまり、ジェンダー研究とは、私たちの社会や文化に浸透している男女二元論、異性愛主義的、ロゴス中心主義などの「当たり前」を疑問視し、世界を多元的に探究することから始まります。

DEPARTMENT OF HUMAN ENVIRONMENT SCIENCE

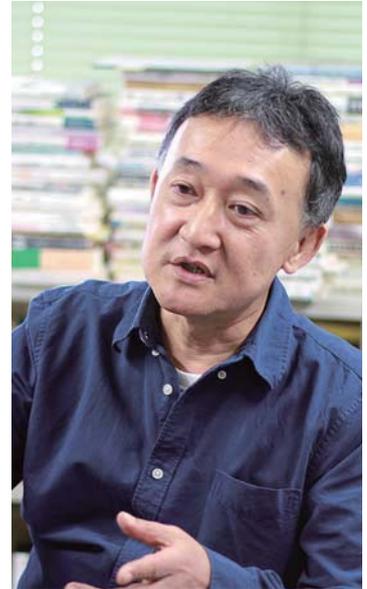
人間環境学専攻

Message from the Chair

専攻長のメッセージ 人間環境学専攻長 平山 洋介 教授

人間環境学専攻は、人間の発達を促し、支え、助けるために、どのような環境を、どのように形成し、維持すればよいのか、という問いを立て、その解明に取り組んでいます。この課題に立ち向かうには、多様な分野からのアプローチが必要です。このため、本専攻では、自然環境、数理情報環境、生活環境、社会環境という各分野の専門知識をもとに、この課題に取り組まします。前期課程が目的とするのは、豊富な専門知識とそれを応用する能力、そして実践行動力を有し、政府、自治

体、民間企業、NPOなどの多様な領域で人間環境のいっそうの改善のために活躍できる人材の育成です。後期課程は、人間環境に関する高度な専門学識と創造的な研究能力を備える自立した研究者、または研究能力に加えて実践的な教育開発能力をもつ大学教員などの養成を目的としています。さらに後期課程においては、より幅広く環境問題にアプローチするため、学外研究機関の研究者で構成される環境先端科学講座を設置しています。



教育の特色

専門性を高める4つの履修コースと学際的研究を支援する教育体制

本専攻がテーマとする「人間の発達を促し、支え、助けるための環境」を解明するには、多様な分野からのアプローチが必要です。そのため、人間環境学専攻では、人間環境としての自然を対象とし、その成り立ちを明らかにしようとする「自然環境」、数理科学を基礎にして情報環境を研究対象とする「数理情報環境」、日常生活の分析・理解から環境のあり方を追求する「生活環境」、人間を取り巻く社会的な環境の諸矛盾の克服を目指す「社会環境」という4つの履修コース(前期課程)と教育研究分野(後期課程)を設置しています。また、所属する履修コースや教育研究分野以外の授業の履修を可能とし、学生が研究課題に応じて、特定の分野の範囲内にとどまらずに、自分自身のコースワークを設定できるようにしています。

専攻共通科目の設置

本専攻には、自由なコースワークを支え、専門性を担保する仕組みが用意されています。まず、専攻共通科目である「人間環境学相関研究」を設置することで、人間環境学に関する研究の視点や方法の幅の広さを学ぶ機会を提供し、その多様性のなかで、学生それぞれがとるべき研究上の位置や方向を検討できるようにしています。

豊富な専門知識をベースとした多彩で実践的に行動できる人材の養成

本専攻の修了生は、人間環境に関わる豊富な専門知識とそれを応用する能力をもとに、実践的に行動する力を有し、多様な進路で活躍することを期待されます。前期課程では、人間環境の改善のため、政府、自治体、民間企業、NPOなど、多様な分野で活躍できる人材を養成します。後期課程では、人間環境に関する高度な専門学識と創造的な研究能力を備える自立した研究者、研究能力に加えて実践的な教育開発能力をもつ大学教員などを養成します。

教育研究分野

自然環境

自然環境分野では、自然環境に関わる物質、生命、地球表層から宇宙にいたる幅広い事柄について、環境汚染、気候変動、生物多様性などの人間生活と密接に関係する環境問題に関して考究します。

研究領域

素粒子物理学、宇宙物理学、生物有機化学、高分子化学、光合成酵素科学、植物生態学、進化生態学、環境地質学、環境地球化学、水域生態学

数理情報環境

数理情報環境分野では、数理科学に対する高い専門性をもとに、多様化・高度化した情報環境について解析し、情報環境に関わる諸問題を解決するため、高度な数理的理論と手法について研究します。

研究領域

情報論理学、計算機代数、応用解析学、トポロジー、数理統計学、応用統計学

生活環境

生活環境分野では、私たちの生活環境を形成する生活空間、生活技術、生活資源の3領域において、加速度的に変化し続け、複雑化する諸問題を、社会科学、人文科学、自然科学の方面から考究します。

研究領域

衣環境学、感性工学、緑地環境学、環境バイオテクノロジー、環境経済学、食環境学、環境システム工学、生活空間計画、ヒューマンエレクトロニクス、バイオメカニクス

社会環境

社会環境分野では、経済学、政治学、歴史学、地理学、法律学など従来の社会科学の研究成果を駆使できる基本的な能力とともに、人間が発達する環境としての社会のあり方を探求します。

研究領域

社会文化環境論、社会保障、社会政策、途上国政治経済、社会規範論、人文地理学、地域社会論、社会思想、都市地理学

環境先端科学 (後期課程の連携講座)

体系的教育を行う大学院と環境科学の先端的研究を推進する中核的研究機関の連携を通じて、次代の環境科学について探求します。

研究領域

大気化学、炭素循環、生物地球化学、マイクロ流体工学、環境分析化学、ナノバイオ計測工学

取得可能な資格免許

中学校教諭専修免許状(理科、数学、家庭、社会)

高等学校教諭専修免許状(理科、数学、家庭、公民)



自然環境分野では、自然環境の成り立ちや、環境と人間の相互作用に関する基礎的研究を行う能力を有し、自然科学的立場から人間環境の具体的諸課題の解決を目指す人材を養成します。そのために、自然環境に関わる物質、生命、地球表層から宇宙にいたるまでの幅広い事柄について、基礎的な理解を深めるとともに、環境汚染、気候変動、生物多様性などの人間生活と密接に関係する環境問題に関して深く考究します。

研究分野

青木 茂樹 教授	素粒子・宇宙線物理学	佐藤 春実 准教授	高分子化学、環境調和型高分子
蘆田 弘樹 准教授	光合成酵素、代謝制御学	高見 泰興 准教授	進化生態学
伊藤 真之 教授	宇宙物理学、科学教育	谷 篤史 准教授	惑星環境物理学
丑丸 敦史 教授	植物生態学、生物多様性科学	寺門 靖高 教授	環境地球化学
江原 靖人 准教授	生物有機化学	源 利文* 准教授	水域生態学、環境生理学
大串 健一 准教授	地球環境、環境地学		

※ 2017年10月着任予定

体系的教育を行う大学院と環境科学の先端的研究を推進する中核的研究機関の連携を通じて、次代の環境科学を担う人材を養成します。

研究分野

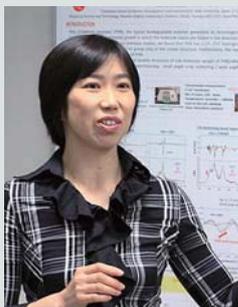
斉藤 拓也 准教授	大気化学、生物地球化学	永井 秀典 准教授	マイクロ流体工学
遠嶋 康徳 教授	大気化学、炭素循環	脇田 慎一 教授	環境分析化学、ナノバイオ計測工学

数理情報環境分野では、数理科学に対する高い専門性を身につけ、情報環境の多様化・高度化に対応して情報に関わる諸問題に有効な解決策を提供することのできる人材を養成します。そのために、伝統的な数学に根ざしてはいるが、特に情報環境に関わる諸側面の解明に有効と思われる数理科学の諸分野を重視した授業科目を通して、複雑に入り組んだ情報環境に対処するための高度な数理的理論と手法を身につけます。

研究分野

稲葉 太一 准教授	数理統計学、応用統計学、データ解析	高橋 真 教授	情報論理学
桑村 雅隆 教授	応用解析学	長坂 耕作 准教授	計算機代数
阪本 雄二 准教授	数理統計学	宮田 任寿 教授	幾何学的トポロジー

テラヘルツ波を利用した高分子材料の劣化の可視化



佐藤 春実 准教授 専門／高分子化学、環境調和型高分子

プラスチック、繊維、ゴムなどに代表される高分子材料は、私たちの生活において欠かせないものとなっています。高分子材料が避けては通れないのが「劣化」であり、私たちの研究室では、電波と光の間の電磁波であるテラヘルツ波を使って高分子材料の劣化の可視化に取り組んでいます。テラヘルツ波は物質の透過性に優れ、高分子の高次構造を反映する

ため、非破壊・非接触で構造や物性を調べることができます。テラヘルツイメージング分光を用いた高分子材料の構造・物性評価により、劣化の場所や度合いを評価することが可能となります。この手法により、近年ますます多様な機能を要求される高分子材料において、物性発現の機構を理解し、新規材料開発に大きく貢献することが期待されます。

現代は「流動化」の時代などと呼ばれます。いいかえれば現代とは加速度的に変化し続ける時代でもあります。そこでは日常の生活さえ刻々と姿を変えており、日々新たな課題が生じています。そこで生活環境分野では、私たちの生活環境を形成する生活空間、生活技術、生活資源の3領域について、社会科学、人文科学、自然科学と、文系・理系の両方にわたる研究手法を駆使して、今日的な課題を取り上げ、分析し、問題解決する能力を養成します。

研究分野

- | | |
|---------------------------------|---------------------------------------|
| 井上 真理 教授 衣環境学、感性工学 | 田畑 智博 准教授 環境システム工学 |
| 大野 朋子 准教授 緑地環境学、造園学 | 平山 洋介 教授 生活空間計画 |
| 近江戸伸子 教授 環境バイオテクノロジー | 福田 博也 准教授 生体電子計測、ヒューマンエレクトロニクス |
| 佐藤 真行 准教授 環境経済学、ライフスタイル論 | 矢野 澄雄 教授 振動工学、バイオメカニクス |
| 白杉 直子 教授 食環境学 | |

現代社会の諸課題を解明するには、既存の社会諸科学の成果だけでは不十分です。現代社会のあるべき方向を模索するためには、一人ひとりの人間の発達を基軸にすえながら、世界規模で進む歴史的な変動のダイナミズムを明らかにするための新しい科学が求められています。そこで社会環境分野では、経済学、政治学、歴史学、地理学、法律学など従来の社会科学の研究成果を駆使できる基本的な能力とともに、人間が発達する環境としての社会のあり方を探求できる実践的な構想力を育成します。

研究分野

- | | |
|---------------------------------------|---------------------------------|
| 浅野 慎一 教授 社会文化環境論、社会学 | 岡田 章宏 教授 社会規範論、イギリス統治構造論 |
| 井口 克郎 准教授 社会保障、福祉国家、災害被災者の生活問題 | 澤 宗則 教授 人文地理学、地域社会論 |
| 岩佐 卓也 准教授 社会政策 | 橋本 直人 准教授 社会思想、社会学史 |
| 太田 和宏 准教授 途上国政治経済 | 山崎 健 教授 都市地理学 |

プロジェクト研究スタッフ

人間環境学専攻では、様々な環境問題に多様な分野からアプローチするため、プロジェクトを立ち上げ取り組んでいます。

研究分野

- 古川文美子** 特命助教 地域資源保全

生活の質と持続可能性について、環境と経済の観点から考える



佐藤 真行 准教授 専門/環境経済学、ライフスタイル論

経済成長とともに、資源の枯渇、環境の汚染、生態系の破壊といった経済成長の指標（GDP）では捉えられない悪影響が深刻化しています。さらに近年では、経済成長の度合いが本当に人々の幸福につながっているのかが問い直されています。これまでの経済成長は、「大量生産～大量消費～大量廃棄」という経済社会システムとともに達成されてきました。

しかし今日、このシステムの持続可能性が問われています。環境は「価格をもたない価値物」です。これを適切に評価し、将来世代との公平性を考慮しながら大切に利用していくことが、持続可能な発展を実現するうえでのひとつの課題です。私の研究室では、持続可能な発展について、環境や資源の観点から経済学を中心に社会科学的研究を行います。

大学院生の研究活動

人間発達環境学研究科の学生は、人間の発達及びそれを取り巻く環境に関わるそれぞれの研究課題に取り組みながら、多様な分野の研究者や学生と協働する学際的研究や実践的研究にも深く関わります。学生はこれらの研究活動を通して、現代的諸問題を解決するための具体的方策を提案し、問題に柔軟に対応できる行動力を身につけます。本研究科に在籍する学生の様々な研究活動の例を紹介します。

理論と実践が伴った 研究者・臨床家を目指して

西尾 祐美子 人間発達専攻 博士課程後期課程 2017年3月修了

私は博士課程で一貫して「自閉症スペクトラムの女子に対する支援」というテーマを追求してきました。先行研究が少ない中、同性でないと難しい女子特有の支援ニーズにアプローチしています。子どもを対象とした臨床研究で結果が客観的なデータに結びつきにくいですが、実証的研究を目指して日々精進しています。

所属研究室では海外へのスタディツアーがあ

り、イギリスの学校や支援機関を視察し、現地の研究者と交流する機会も持てました。また、約1年間アメリカ・ニューヨーク市立大学に留学し、帰国後もグローバルな視点で国際比較を行う共同研究に携わっています。

私は臨床心理士でもあるため、将来は研究者として新たに知見を広げるだけでなく、成果を臨床現場へ還元できるように研究と実践の双方を積み重ねたいです。



地下水に含まれるヒ素に関する 地球化学的研究

Nasher N. M. Refat 人間環境学専攻 博士課程後期課程 2年在学

バングラデッシュのヒ素による汚染地域において地表付近の地下水を採取し、主・微量成分分析を行ってヒ素が混入するメカニズムを理解するための研究をしています。私が所属する人間発達環境学研究科は、海と山の両方が見えるすばらしい場所にあります。研究科は留学生をととても歓迎しており、学習環境は非常に整っていて、学業に打ち込み、多くの

ことを学ぶことができます。また様々な機会を通して、学生同士が互いにスキルを伸ばし、異なる文化を学ぶことができます。ここでの経験を通じて学業のみならず、人間としても成長できると思います。私の研究成果によって、ヒ素に汚染された地域において、安全な地下水源を見つけることを可能にしたいと考えています。



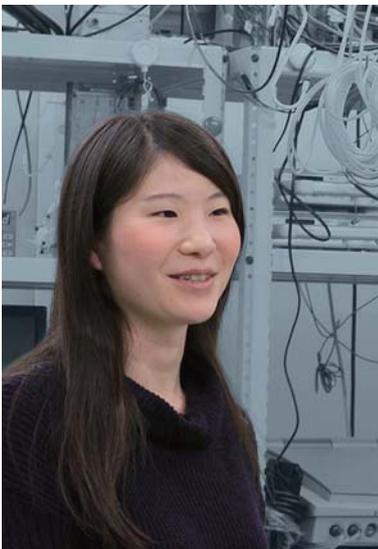


自由な環境で興味のあることを とことん学び研究できる

中村 瑞穂 人間発達専攻 博士課程前期課程 2年在学

私は小学校国語教科書に掲載されている文学的文章教材の挿絵に着目して研究を行っています。読解は文章中心に行われており、挿絵はあくまで補助的なものであるという考えから、挿絵に関する研究は十分には行われていません。しかし文章中心に読解は行いつつも、挿絵を有効に活用すれば児童の文章に対する理

解はより深まるのではないかと考えています。卒業後は小学校の教師になる予定です。教師になってからも教材研究は欠かせません。1つ1つの教材を深く研究できる今のこの環境はとてもありがたいです。教師になるなら学部卒までで良いと思っている方も、ぜひ大学院進学も選択肢の1つに入れてみませんか。



ヒトの発汗研究を通じて養われた 学際的・国際的視点

葺石 育美 人間発達専攻 博士課程前期課程 2017年3月修了

私の研究室ではヒトの汗の仕組みを多角的な視点から研究しており、その中で私は精神的なストレスとの関係をテーマとしています。研究活動では汗に関わる生理学的知識を学ぶだけではなく、授業や研究発表を通じて多岐にわたる分野の先生方から常に新たな切り口でアドバイスをいただくことができ、複雑なヒトの体の仕組みをより深く理解することができました。また、研究室では毎年様々な国

籍や研究分野の方が招かれ、研究交流をしています。このように、学際的・国際的な視点を持って研究に携わることで、多様な考え方や広い視野を持つことの大切さを学びました。今後は企業の技術系総合職として、研究活動で得た知識や論理的な思考力、国際交流を通して養われた国際感覚を活かし、課題に取り組んでいきたいと思っています。



ストリートミュージシャンの 調査研究

増田 潤 人間環境学専攻 博士課程前期課程 2017年3月修了

私は、大阪や神戸の駅前などで演奏しているストリートミュージシャンについての研究をしています。彼らがストリートライブで表現する音楽性はもちろんのこと、音楽面以外の生活実態・社会意識もトータルにとらえ、ミクロな要素である彼ら自身の主体性・人間発達とマクロな要素である現代社会との関係を解明しようとしています。私が所属している

ゼミで調査手法や現代社会のシステム・論理を学んだ後に、フィールドワークとして街でストリートミュージシャンに日々インタビュー調査を行っています。実際に調査を進めていると、本や論文を読むだけではわからないような現実を知ることができる点が非常に興味深いです。

社会貢献・地域貢献

大学と社会をつなぐプラットフォーム「発達支援インスティテュート」

人間発達環境学研究科は、附属研究施設である発達支援インスティテュートを、「人間発達に関する教育研究、実践的研究を行うとともに、地域との連携を進め、多層・多元的なコミュニティの創成及び社会貢献に資すること」を目的に、2007年4月に設置しました。本インスティテュートは、本研究科が対象とする現代の問題に即してこの目的を実現するため、以下の5つのユニットを置いています。

ヒューマン・コミュニティ創成研究センター

ヒューマン・コミュニティ創成研究センターでは、本研究科で蓄積されてきた研究成果と、地域社会の実践活動とを融合させながら、現場に即した実践的研究活動を行っています。地域組織、NPO、NGO、企業、行政、学校等の人々と連携しながら、研究・実践を深め、人間らしさにあふれたコミュニティの創成を目指しています。



■ ESDネットワーク支援プロジェクト

持続可能な開発のための教育(ESD = Education for Sustainable Development)の観点から、ESDに関心をもつ地域社会の団体・組織のネットワーク化を促進する「ESD ネットワーク支援プロジェクト」、東日本大震災の被災地の復興・まちづくりを支援する「大船渡支援ESDプロジェクト」、ハンセン病療養所邑久光明園(岡山県瀬戸内市)の協力のもとで行う「持続可能な島づくりプロジェクト」の3つのプロジェクトを実施しています。

■ 障害共生支援プロジェクト

「のびやかスペースあーち」や「アゴラ」などの学内施設をフィールドとし、学内外の研究員、対人支援やアート活動などを学ぶ学生のみなさんが協働して、障害のある人々を排除しないインクルーシブな社会づくりに関わる実践・研究・教育を行っています。

活動例

心理教育相談室

心理教育相談室は、地域住民を対象とする心理相談機関と臨床心理士養成に関わる実習機関をかねて、これまで活発な相談援助活動を実施してきました。臨床心理学コース(前期課程)の大学院生が臨床心理士の資格を持つ本研究科教員による指導のもと、継続的な心理相談活動に従事しています。



■ 臨床心理面接・プレイセラピー

心理教育相談室には、子どもからお年寄りまで様々な年代や立場の人が相談に訪れており、主に成人を対象とした面接相談である臨床心理面接や子どもを対象とするプレイセラピーを中心に、年間約1000件の相談面接を実施しています。

■ 臨床心理学的地域支援

心理教育相談室担当の本研究科教員は様々な領域において地域貢献・社会貢献活動を行っています。地域の学校におけるスクールカウンセリング、地方自治体や福祉法人の研修会における講師、地域住民を対象とした巡回支援等に取り組んでいます。平成28年度には「のびやかスペースあーち」との連携で子育て支援セミナーを開催しました。

活動例

サイエンスショップ

サイエンスショップは、地域社会の市民が科学技術をより身近に感じ、「科学」という営みを楽しむ文化をひろげてゆくことを目指し、市民と専門家(科学者、技術者など)の対話と協働の場づくり、市民の様々な科学活動への支援、地域の学校や社会における科学教育に対する支援など実践的な活動に取り組んでいます。



活動例

■サイエンスカフェの開催と支援

サイエンスカフェは、街のカフェなどで、科学者等の専門家と市民が科学・技術などに関する話題について語るイベントです。「サイエンスカフェ神戸」を開催するほか、兵庫県内を中心に各地で市民によるサイエンスカフェの企画・開催を支援しています。

■市民の環境保全活動等への支援

南あわじ市神代地区のシカによる食害対策への支援や、市民グループ「佐用川のオオサンショウウオを守る会」の河川調査に協力するなど、市民による地域の環境保全活動への支援に取り組んでいます。

教育連携推進室

近年、大学に対して期待する声が高まっている初等中等教育との連携に係る社会貢献へ要望と、本研究科に長年にわたり蓄積された学問的成果を踏まえ、教育連携推進室は、高等学校をはじめ小学校、中学校、特別支援学校、教育委員会等と協力し、高大連携事業の推進や、初等中等教育に対する支援及び学校教育・社会教育における連携事業を行っています。



活動例

■参画型実践研究を基盤とする高度教員養成プログラム

知識基盤社会をリードできる高度な能力を備えた教員の養成は極めて重要な課題であり、その解決に資するため、附属校園等を活用したアクションリサーチによる実証的研究を通して、修士課程レベルにおける高度な教員養成を目指します。

アクティブエイジング研究センター

人口の高齢化は解決すべき重要な社会的課題であり、世界保健機関(WHO)が掲げる「アクティブエイジング(活力ある高齢化)」はこの課題解決に向けた指針として注目されています。本センターは、研究科に蓄積された研究成果を踏まえ、この分野における先端的研究の創発とその成果の社会的還元を通じ、高齢化に係る課題解決に資することを目的とし、この研究のアジアのHubを目指しています。



活動例

■鶴甲いきいきまちづくりプロジェクト

鶴甲地区(鶴甲第2キャンパス周辺地区)において、多世代が心身ともに健やかに安全に暮らせるまちづくりを目指すプロジェクトを立ち上げ、住民の学びと活動の場を基礎となるアカデミックサロンの企画・実施などを行っています。

■住民ネットワーク形成の客観的検証方法の確立

ウェアラブルセンサデバイスによって対面コミュニケーション行動データを自動収集し、ネットワーク解析を行うことで住民交流の現状や変化、キーパーソンを把握し、支え合い・助け合いの基盤となる住民ネットワークの活性化につなげていくことを目指しています。

国際学術交流

人間発達環境学研究科は、世界各国の教育・研究機関と積極的に交流を行っています。海外から多くの研究者が本研究科を訪問し、学生も主体的に学術交流に関わり、研究集会を開催しています。また、学生は、神戸大学や本研究科が協定を結んだ海外の教育・研究機関等に派遣され、現地の学生とともに、調査研究、研修等を積極的に行っています。さらに、講義や演習の一環として、いくつかの具体的なテーマを掲げ、海外の学生、研究者、実践家等と問題意識を共有しながら調査研究や学術交流を進めるスタディツアーにも積極的に取り組んでいます。

留学・スタディツアー体験談



ドイツで文理融合の学問に触れて

田中 維 人間発達専攻 博士課程前期課程 2年

私の研究は、博物館や動物園など学校外の科学教育施設で使用する、ICT教育教材を開発、評価することです。自分の研究内容を発展させるために、ドイツのドレスデン工科大学の心理学コース「Human Performance in Socio-Technical Systems」へ半年間留学しました。本コースは、特に科学技術に関わる心理作用を取り扱います。留学中は、本研究科では開講されてない「User Interface」など

情報工学の授業を受講することができたり、「Master Thesis Seminar」の授業で、自分の研究内容を発表し、心理学、教育学、情報工学の教授から研究へのアドバイスを受けたりすることができました。また、オータナティブ教育施設など、ドイツ特有の教育現場も実際に見学することができました。本留学を通じて、教育学から心理学、日本からドイツと幅広い新たな視点を得ることができました。



定時制高校から社会の問題を考える

岩崎 陽 人間発達専攻 博士課程前期課程 2年

スタディツアーとして七泊八日で韓国に行かせていただきました。現地のナザレ大学を拠点として、大学に通う障害者に対する日韓の支援の違いを考え、現地の学生と交流しました。スタディツアーに参加したのは自分の研究に対する視野を広げるためです。実際に障害という切り口から社会がどのような問題を抱えているかについて考えさせられました。私自身は、社会の問題を定時制高校という

フィールドから考えていくような研究をしたいと思っています。「障害」と「定時制高校」は、違いこそありますが、社会から排除・抑圧されているという点で共通しています。その共通点や日韓の差という視点に触れたこと、またツアーを通して出会った方たちとの交流によって、自分の研究を深めていきたいと考えています。

国際シンポジウム、ワークショップ、講演会等

■特別講演会「発展途上国における教育」

Pannhasastra University of Cambodia(カンボジアパニャサストラ大学)のKol Pheng 学長を招き、カンボジアの教育問題や教育政策についての講演会を行いました。



■セミナー「日本の授業を『再発見』する：アメリカ研究者との対話を通して」

授業づくり(Lesson Study)に関心のあるSharon Dotger 准教授(Syracuse University)を招いて、日本の授業と比較したアメリカの授業の特徴や課題についての講演会を行い、日本の授業を「再発見」する試みを行いました。



■特別講演会

「Sono Osato: Politics, Ballet, and Broadway during World War II」

21世紀のアメリカ音楽史研究のリーダー的存在であるCarol Oja 教授(Harvard University)を招き、最新の資料を駆使し新たな枠組みから描き出されたSono Osatoの芸術活動や家族の物語についての講演会を行いました。



海外協定校との学術交流

神戸大学または本研究科は、海外の大学等の教育研究機関との間で学術交流協定を締結し、学術及び教育上の様々な分野において、研究者や学生の交流をはじめとして教育・研究に関する交流活動を行っています。

海外協定校

国名/地域	教育研究機関	国名/地域	教育研究機関
中国 China	Beijing Normal University *	ベルギー Belgium	Vrije Universiteit Brussel
	East China Normal University *	ブルガリア Bulgaria	Sofia University St. Kliment Ohridski
	Shanghai Jiao Tong University	チェコ Czech	Charles University
	The University of Hong Kong *	フランス France	Ecole Normale Supérieure de Lyon *
	Tsinghua University		Université de Paris Ouest Nanterre La Défense
	Wuhan University		Université Lille 3 *
	Zhejiang University *		Université Panthéon-Assas (Paris II)
フィリピン Philippines	San Beda College *		Université Paris Diderot-Paris 7
韓国 Korea	Gongju National University of Education *	ドイツ Germany	Universität Hamburg *
	Korea Nazarene University *		Kiel University
	Pusan National University *	イタリア Italy	Ca' Foscari University of Venice
	Seoul National University		University of Bologna
台湾 Taiwan	National Taiwan University	オランダ Netherlands	Leiden University
オーストラリア Australia	The University of Queensland	ポーランド Poland	Jagiellonian University in Krakow
	The University of Western Australia	リトアニア Lithuania	Vilnius Gediminas Technical University *
カナダ Canada	University of Ottawa	英国 United Kingdom	University of London
アメリカ合衆国 USA	University of Pittsburgh		
オーストリア Austria	FH Joannrum University *		
	Johannes Keplauer University *		
	University of Graz		

※人間発達環境学研究科が締結する協定

■ 修士論文 (最近の修士論文の抜粋です)

人間発達専攻

こころ系	<p>幼児をもつ母親の被援助志向性と育児サポートの検討</p> <p>中学生の歯科保健行動とその関連要因 -心理社会的要因に焦点をあてて-</p> <p>在日留学生の異文化適応に関する研究</p> <p>共食や孤食といった食行動とその関連要因の検討</p> <p>青年期の自己定義記憶と自我同一性との関連</p> <p>思春期の子どもを持つ母親の被援助志向性に関する一考察</p> <p>Attention Deficit Hyperactivity Disorder傾向のある子どもの人物画テストに現れる特徴 ~日本と中国の比較を通して~</p> <p>自助グループにおいて当事者の経験はどのような意味をもつか -摂食障害の自助グループから-</p> <p>青年期における親子関係の変化が与える影響について</p> <p>小学生の認知する教師の勢力資源 -児童の学校享受感からの検討-</p> <p>健常高齢者の内的世界に関する一考察 -d-MSSMで表現された人生のテーマに着目して</p>
表現系	<p>装飾的デザインとしての周期パターンの生成およびその印象評価</p> <p>現代ファッションにおける「男らしさ」の理想像の変遷 -雑誌「ポパイ」を中心に-</p> <p>無調性音楽の聴取印象および難易性評価に関する研究</p> <p>表現運動における「コンタクト・ダンス」教材化の試み-小学校高学年を対象としたコンタクト・ワークを導入した授業実践を通して</p> <p>住宅における演奏会 -住み開き演奏会の構造に関する考察-</p> <p>大正・昭和戦前期における熊澤磨二の活動に関する研究 -写真表現における理念の変容に着目して-</p>
からだ系	<p>長時間の全身運動における体温調節特性</p> <p>サッカーの直接フリーキックにおける射的正確性に関する研究</p> <p>伏線経路・等至性モデルによる総合型地域スポーツクラブの自立過程に関する研究</p> <p>縄跳び運動が子ども注意力・集中力に及ぼす影響</p>
学び系	<p>東井義雄実践における教育目的 -「形成者」と「ひとりひとり」に着目して</p> <p>小学生における生態系の理解に関するラーニング・プログレッション</p> <p>教師の中年期の危機 -教員文化に着目して-</p> <p>動物園来園者の科学的観察を支援する紙芝居</p> <p>小学校国語科における「伝記」教材の授業開発 -「伝記」のジャンル特性に着目して</p> <p>小学校中学年児童の全力疾走における走動作の特性</p> <p>幼児の概念的サビタイジングに関する研究</p> <p>1~2歳児における自己調整の発達の変化-対人葛藤場面における相互交渉に着目して-</p> <p>幼児の共同画制作過程における相互交渉とその影響 -同年齢ペアと異年齢ペアの比較-</p> <p>グローバル化時代における内モンゴルの少数民族話者のアイデンティティ形成に関する研究</p> <p>子育て支援施設を利用する保護者の「親育ち」に関する研究</p>

人間環境学専攻

自然環境	<p>国際宇宙ステーションにおけるアラニンの化学進化研究および紫外線線量計の開発</p> <p>硫黄を含む有機試薬の合成とその分析化学的研究</p> <p>流路UV照射を用いた窒素含有化合物のルミノール化学発光検出法の開発</p> <p>金ナノ粒子を用いたインフルエンザウイルスの検出</p> <p>「かぐや」搭載ARDデータによる月面の222Rn α線の研究</p> <p>Botryococcus brauniiにおける遺伝子の導入と発現の試み</p> <p>交尾器形態の多様化をもたらす性淘汰の検出</p> <p>トリス (2, 2'-ビピリジン) ルテニウム(III) 錯体の化学発光を用いたホモシステインおよびホモシスチン分析法の開発</p> <p>エマルジョン望遠鏡によるVela pulsar位相分解観測のためのタイムスタンパーに関する研究開発</p> <p>レクチンを特異的に認識する人工核酸の設計と合成</p>
数理情報環境	<p>直交不変推定量を用いた線形判別関数の漸近展開</p> <p>偏微分方程式の数値的解法について</p> <p>2つのパラメーターをもつ常微分方程式の解の分析について</p> <p>対話型証明系とゼロ知識証明-NPに属する問題のゼロ知識証明について</p>

生活環境	<p>エネルギー効率と食品衛生を考慮したハンバーグステーキ焼成条件</p> <p>肌着用編布の風合いの客観評価に関する研究</p> <p>親子近居の住宅条件－オーストリア、デンマーク、日本の比較を通して</p> <p>マーカレスモーションキャプチャ技術を用いた歩行運動分析システムの評価</p> <p>淡路島における再生可能エネルギー供給可能量の空間的・定量的分析</p> <p>Regional Sustainability and Internal Migration in China (中国における地域の持続可能性と国内人口移動)</p> <p>ジャトロファの開花遺伝子導入ならびに染色体に関する研究</p>
社会環境	<p>日本における高齢者コミュニティケアの現状－地域包括ケアシステムを中心にして－</p> <p>父母の国で－永住帰国後の中国残留日本人二世－</p> <p>中国大都市における社区在宅養老サービス－上海市を対象として－</p> <p>中国対アフリカ援助の独自性－「発展指導モデル」に関する研究</p> <p>中国人留学生の帰国後の労働・生活・意識－山東省を中心として－</p> <p>在日中国人留学生のストレスと人間発達－日本語学校在学生を対象として－</p>

■博士論文 (過去2年間の博士論文です)

人間発達専攻

2016年度	<p>児童期・青年期における居場所の特質と心理的適応に及ぼす効果の検討</p> <p>総合型地域スポーツクラブの運営に影響を及ぼすソーシャル・キャピタル要因に関する実証的研究：質的・量的アプローチによる試み</p> <p>思春期・青年期の衝動的行動の生起プロセスにおける促進要因および防御要因の検討－トップダウン・システムとボトムアップ・システムの発達に着目して－</p> <p>Autism Spectrum Disorder (ASD) のある女子の思春期における課題と支援－社会的コミュニケーションを中心に－</p> <p>妊娠・出産経験が成人期の生と死に対する態度に及ぼす影響</p> <p>若年成人におけるヒトの特性と食行動との関連</p> <p>チームスポーツ競技における集団凝集性と集団効力感を高める構成員の心理社会的能力－選手のライフスキルおよび組織市民行動による検討－</p> <p>現代米国都市部における学校再編政策の特質と課題に関する研究－「地域再生」との連関に焦点を当てて－</p> <p>器楽教育成立過程の研究</p>
2015年度	<p>現代社会における女性のストレスとそれに及ぼす食事制限の効果</p> <p>臨床場面における反復される語りに関する研究－ナラティブアプローチの視点から－</p> <p>岡山県私設小学校教員養成所の研究－戦前日本における私立学校による小学校教員養成事業－</p> <p>障害支援の関係論的研究－専門家像の脱構築試論－</p> <p>行動変容理論からみた中高齢者の身体活動とセルフ・エフィカシーに関する研究</p> <p>青少年期における社会的スキルの発達にスポーツ活動が及ぼす影響</p> <p>スポーツクラブにおける若者ボランティア指導者のマネジメントに関する研究</p> <p>成人のスポーツライフに影響を与える要因とプロモーション事業に関する研究</p> <p>セルゲイ・プロコフィエフの音楽の暗号と芸術性－《ピアノ・ソナタ》におけるラインとコードのアナグラム－</p>

※人間発達環境学研究科は2013年4月に、旧4専攻(心身発達専攻、教育・学習専攻、人間行動専攻、人間表現専攻)を改組し、人間発達専攻を設置しました。人間発達専攻のリストには、旧4専攻の博士論文を含みます。

人間環境学専攻

2016年度	<p>特殊化した花形態の適応的意義：送粉者相の限定および送粉効率への影響</p> <p>中国都市部における高齢者の生活と福祉に関する研究－西安市の社区・施設での実態調査をふまえて</p> <p>中国山東省済南・青島大都市圏の地域構造－改革開放以降の大学城開発を事例として－</p> <p>Spatial and temporal effects of local climate change on the carabid beetle community in Baekdudaegan mountain of South Korea</p>
2015年度	<p>蛍光性配位子を含む銅及びコバルト錯体の合成と還元剤分析への応用</p> <p>残留日本人二世等の生活と社会意識に関する研究</p> <p>ガンマ線天体観測のためのエマルジョン望遠鏡システムの開発と2015年豪州気球実験の実現化</p> <p>石灰岩中の希土類元素などの微量元素存在度に関する地球化学的研究</p> <p>老人福祉施設への環境適応におけるリーフ緑茶活用に関する研究</p>

■前期課程修了生の主な進路

人間発達専攻

- 2016年度
- [就職] 旭化成ホームズ、アルペン、一般社団法人 波の家福祉会、大阪厚生信用金庫、大阪放送、近畿大学附属小学校教員、社会医療法人祐生会 みどりヶ丘病院、社会福祉法人 須磨神愛福祉会、社会福祉法人 北摂杉の子会、SCREENホールディングス、ゼビオホールディングス、トヨタ自動車、ミルボン、四葉幼稚園教員、神戸大学附属小学校教員、国立病院機構 南和歌山医療センター、富山県警察、心理判定員(奈良県)、神戸市教育委員会、市職員(神戸市、天理市)、都道府県職員(大阪府、兵庫県)、保育士(横浜市)、小学校教員(京都府、神戸市、豊能地区)、高校教員(大阪府、滋賀県、兵庫県)
- [大学院後期課程進学] 神戸大学大学院人間発達環境学研究科
- 2015年度
- [就職] オリンパス、河北省邢台学院、公益社団法人 関西経済連合会、神戸大学附属小学校教員、社会福祉法人 平安徳義会 乳児院、日工、ニプロ、日本ベーリンガーインゲルハイム、パナソニック、阪急阪神百貨店、ミズノ、ランドブレイン、小学校教員(大阪市、京都市、兵庫県)、中学校教員(京都市)、大阪少年鑑別所、大阪府警察、大阪府職員、市職員(大阪市、京都市、神戸市)、兵庫県中央こども家庭センター
- [大学院後期課程進学] 神戸大学大学院人間発達環境学研究科

人間環境学専攻

- 2016年度
- [就職] アサヒペン、アドヴィックス、アンフィニ、一般社団法人 日本血液製剤機構、協和化学工業、グンゼ、山九、ジェイ・エム・エス、シスメックス、Sky、生発栄養薬品、セップ、西日本旅客鉄道、日本総合研究所、富士通、富士通ゼネラル、富士フィルムICTソリューションズ、村田製作所、ユナイテッド、横浜国際オークション、横浜ゴム、中学校教員(兵庫県)、高校教員(兵庫県)
- [大学院後期課程進学] 神戸大学大学院人間発達環境学研究科
- 2015年度
- [就職] アクセンチュア、アコム、アルプスシステムインテグレーション、大阪ガス、海遊館、一般財団法人 化学及血清療法研究所、金蘭千里中学校・高等学校教員、三田学園中学校・高等学校教員、ジェーシービー、ジャステック、新日鉄住金ソリューションズ、住友電工情報システム、西部ガス、宝酒造、テイエルブイ、東洋埠頭、成田国際空港、日本アイ・ピー・エム・サービス、日本ケミファ、野村総合研究所、浜学園、ファイン、三菱日立パワーシステムズ、村田製作所、ライズエージェンシー、ILS、高校教員(大阪府、兵庫県)、中学校教員(兵庫県)
- [大学院後期課程進学] 神戸大学大学院人間発達環境学研究科

■資格取得状況

人間発達専攻

- 2016年度
- 幼稚園教諭専修免許状 4名、小学校教諭専修免許状 6名、中学校教諭専修免許状(社会) 1名、中学校教諭専修免許状(数学) 3名、中学校教諭専修免許状(音楽) 2名、中学校教諭専修免許状(保健体育) 1名、高等学校教諭専修免許状(公民) 1名、高等学校教諭専修免許状(数学) 3名、高等学校教諭専修免許状(音楽) 2名、高等学校教諭専修免許状(保健体育) 1名
- 2015年度
- 小学校教諭専修免許状 8名、中学校教諭専修免許状(音楽) 2名、中学校教諭専修免許状(美術) 1名、中学校教諭専修免許状(保健体育) 1名、高等学校教諭専修免許状(音楽) 2名、高等学校教諭専修免許状(美術) 1名、高等学校教諭専修免許状(保健体育) 1名

人間環境学専攻

- 2016年度
- 中学校教諭専修免許状(数学) 2名、中学校教諭専修免許状(理科) 6名、高等学校教諭専修免許状(数学) 2名、高等学校教諭専修免許状(理科) 8名
- 2015年度
- 中学校教諭専修免許状(数学) 4名、中学校教諭専修免許状(理科) 9名、中学校教諭専修免許状(家庭) 1名、高等学校教諭専修免許状(数学) 5名、高等学校教諭専修免許状(理科) 10名、高等学校教諭専修免許状(家庭) 1名

■2018年度入試日程一覧

博士課程前期課程

専攻・コース	募集人員	出願期間	試験期間	合格発表	入学手続期間
人間発達専攻(1年履修コース以外)	51人	2017年8月3日～9日	2017年9月21日、22日	2017年10月6日	2018年3月中旬予定
人間環境学専攻	36人	2017年8月3日～9日	2017年9月21日、22日	2017年10月6日	
人間発達専攻1年履修コース	4人	2017年12月1日～7日	2018年1月6日、7日	2018年1月22日	

(注) 募集人員には、社会人特別入試若干人及び外国人留学生特別入試若干人を含む。
人間発達専攻(1年履修コース以外)の募集人員51人には、臨床心理学コースの募集人員10人程度を含む。

博士課程後期課程

専攻	募集人員	出願期間	試験期間	合格発表	入学手続期間
人間発達専攻	11人	2018年1月21日～26日	2018年3月2日	2018年3月8日	2018年3月中旬予定
人間環境学専攻	6人	I期	2017年7月18日～24日	2017年9月20日	
		II期	2018年1月21日～26日	2018年3月2日	

(注) 募集人員には、進学者及び外国人留学生特別入試若干人を含む。

■志願者・合格者・入学者数

博士課程前期課程

専攻・コース	2017年度			2016年度			2015年度		
	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者
人間発達専攻(1年履修コース以外)	86人	51人	44人	89人	54人	48人	117人	60人	54人
人間環境学専攻	41人	37人	34人	44人	37人	33人	46人	42人	35人
人間発達専攻1年履修コース	6人	5人	5人	6人	4人	4人	10人	5人	5人

(注) 2015年度の募集人員は、人間発達専攻(1年履修コース以外)52人、人間環境学専攻40人、人間発達専攻1年履修コース4人。
2016年度の人間発達専攻志願者数は、第2次募集の人数を含む。

博士課程後期課程

専攻	2017年度			2016年度			2015年度		
	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者
人間発達専攻	17人[6人]	12人[5人]	12人[5人]	17人[6人]	11人[5人]	11人[5人]	18人[6人]	13人[4人]	13人[4人]
人間環境学専攻(I期・II期合計)	9人[6人]	7人[5人]	6人[4人]	8人[3人]	8人[3人]	6人[2人]	4人[3人]	4人[3人]	4人[3人]

[]内は本研究科前期課程からの進学者数

■募集要項・過去問題閲覧方法

募集要項の入手方法や過去問題の閲覧方法等の詳細については以下のウェブサイトに掲載されています。

[博士前期] <http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/node/1244>

[博士後期] <http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/node/1246>

■入試に関する問い合わせ

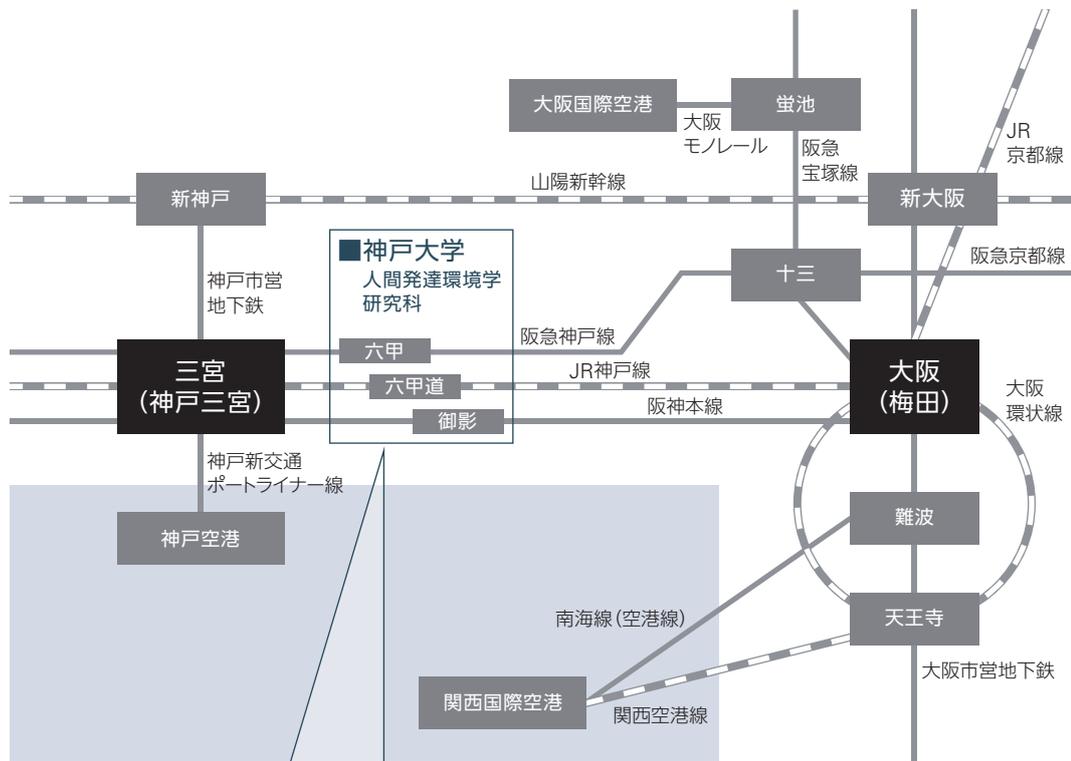
神戸大学大学院人間発達環境学研究科 教務学生係

メール : hudev-kyomu@office.kobe-u.ac.jp

電話 : 078-803-7920

ACCESS

アクセス



交通アクセス

最寄り駅は、阪急電車「六甲」駅またはJR「六甲道」駅または阪神電車「御影」駅。

最寄り駅から神戸市バス36系統「鶴甲団地」行(「鶴甲2丁目止」行)に乗車、「神大人間発達環境学研究科前」で下車。

神戸大学大学院 人間発達環境学研究科

〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲3-11

TEL 078-803-7905(代表) FAX 078-803-7939

<http://www.h.kobe-u.ac.jp/>

2017年6月発行

